



# 島本町学校施設長寿命化計画 (概要版)

1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的	1
2. 学校施設の目指すべき姿	2
3. 学校施設の実態	2
4. 学校施設整備の基本的な計画方針	4
5. 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	4
6. 長寿命化の実施計画	5
7. 長寿命化計画の継続的運用方針	7

令和3(2021)年6月  
島本町

# 1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的



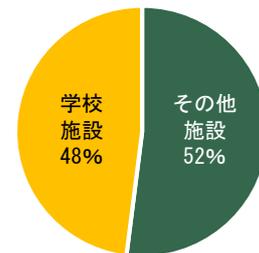
## ■背景・目的

島本町は人口の急増期を終えた昭和 60(1985)年頃に急速な都市化は沈静化し、平成に入ってからほぼ横ばいの状況となっていました。平成 20(2008)年 3 月には JR 島本駅が開業し、現在も島本駅西側開発により人口の増加を見込んでいますが、今後、緩やかに減少することが予測されます。

町の財政負担や地域特性も考慮した持続可能な学校整備を進めるため、改修や更新の時期を迎えている多くの老朽化施設の整備手法を長寿命化改修へ転換し、予防保全や建替えサイクルの延長による施設整備に重点を移していくことが重要となっています。

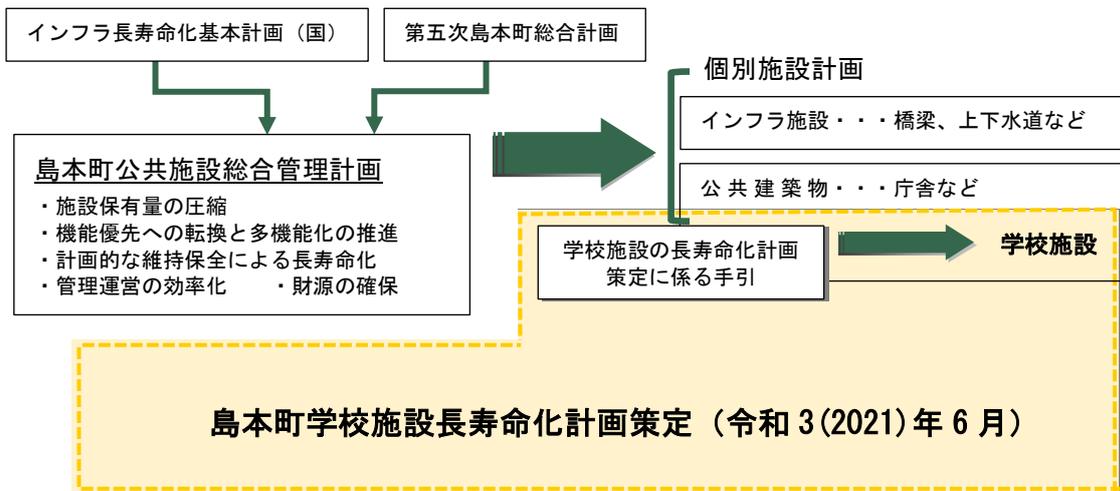
「島本町学校施設長寿命化計画」では、学校施設の劣化状況や状態の変化を把握し、事業量や事業費の縮減及び平準化を図りつつ、改修等の優先順位を定めました。

公共建築物  
総延べ延床面積：約 8 万㎡



島本町公共施設総合管理計画  
(平成 28(2016)年 3 月策定)

## ■計画の位置付けと計画期間



## ■対象施設

	施設数	校地面積(㎡)		延床面積(㎡)					
		建物敷地	運動場	校舎		体育館		給食棟	
小学校	4 校	33,297	31,159	12 棟	23,600	4 棟	3,271	1 棟	250
中学校	2 校	19,456	18,216	5 棟	11,430	2 棟	2,248	1 棟	593
幼稚園	1 園	1,965	732	1 棟	1,198	—	—	—	—
学童保育	2 室	※	※	2 棟	907	—	—	—	—
合計	9 施設	54,718	50,107	20 棟	37,135	6 棟	5,519	2 棟	843

※学童保育室の校地面積は小学校に含めています。

## 2. 学校施設の目指すべき姿



### 安全・安心な施設環境の確保

学校施設の寿命を延ばすために、劣化が激しくなる前に計画的な補修（予防保全型）を実施し、内外壁等の落下防止などから児童生徒を守る安全・安心な施設環境を目指します。

### 教育環境の質的向上

確かな学力を育み、学習意欲や学習習慣を培うために情報機器やデジタル教材などを活用できるよう ICT 環境の整備を進め、学習活動の充実を目指します。

### 地域コミュニティの拠点形成

学校と地域の連携を深めるために、学校施設を地域のコミュニティの拠点として位置付け、地域の魅力を発見する体験活動や児童生徒とともに活動する場の提供等地域に開かれた学校づくりを推進します。そのためにも、長寿命化改修等により老朽化した施設を改修し、防災機能の備えた学校施設を目指します。

## 3. 学校施設の実態

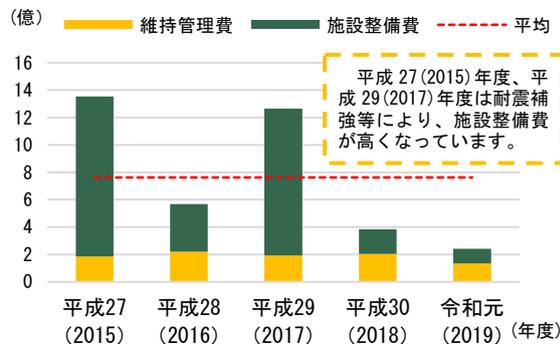


### ■学校施設の運営状況・活用状況等の実態

#### ①児童生徒数の推移と予測

(年度)	実数		予測							
	平成 30 (2018)	令和 2 (2020)	令和 7 (2025)	令和 12 (2030)	令和 17 (2035)	令和 22 (2040)	令和 27 (2045)	令和 32 (2050)	令和 37 (2055)	令和 42 (2060)
児童数	1,856	1,935	2,058	2,088	1,976	1,741	1,538	1,458	1,429	1,405
生徒数	745	788	838	850	804	709	626	594	582	572
合計	2,601	2,723	2,896	2,938	2,780	2,450	2,164	2,052	2,011	1,977
増減率		(基準年)	+6.4%	+7.9%	+2.1%	-10.0%	-20.5%	-24.6%	-26.1%	-27.4%

#### ②過去5年間の施設関連経費



施設整備費	平均 約 5.7 億円	平均 約 7.6 億円
維持管理費	平均 約 1.9 億円	

#### ③学校施設の保有状況

	棟数	面積合計	面積構成比
築 50 年以上	3 棟	4,733 m <sup>2</sup>	10.9%
築 49~40 年	11 棟	18,984 m <sup>2</sup>	43.6%
築 39~30 年	6 棟	9,611 m <sup>2</sup>	22.1%
築 29~20 年	1 棟	1,198 m <sup>2</sup>	2.8%
築 19~10 年	2 棟	1,920 m <sup>2</sup>	4.4%
築 10 年未満	5 棟	7,051 m <sup>2</sup>	16.2%
合計	28 棟	43,497 m <sup>2</sup>	100%
旧耐震基準	17 棟 29,605 m <sup>2</sup>	新耐震基準	11 棟 13,892 m <sup>2</sup>

## ■整備対象学校施設の老朽化状況の実態

### ①構造躯体の健全性の評価

対象 施設 28棟	新耐震基準 11棟 (39.3%)	長寿命化 28棟 長寿命化改修では老朽化した施設の不具合を直すだけでなく、時代のニーズに合った機能や性能の引き上げも行います。(機能回復及び機能向上)
	旧耐震基準 17棟 (60.7%)	
	耐震性あり または耐震補強済み 17棟	

### ②躯体以外の劣化状況

部位別に評価した結果、建設又は全面改修からの経過年数などで評価する機械設備では予防保全的な老朽化対策を必要とする部位(評価C)の棟が17あり劣化が進んでいます。

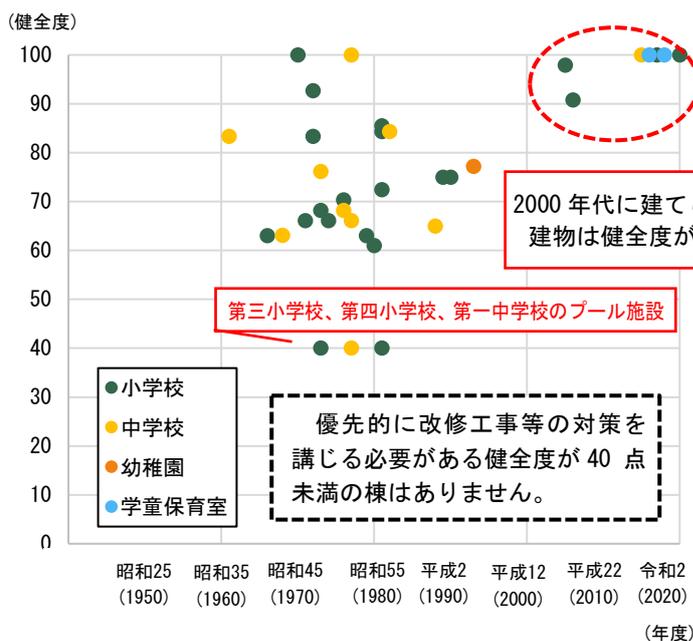
棟別に評価した結果、評価Cがある棟は34棟中19棟(55.9%)あります。

判定	屋根・屋上		外壁		内部仕上		電気設備		機械設備		棟別	
	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合	棟数(棟)	割合
A	15	53.6%	14	50.0%	9	32.1%	20	58.8%	9	26.5%	7	20.6%
B	12	42.9%	13	46.4%	13	46.4%	6	17.6%	8	23.5%	8	23.5%
C	1	3.6%	1	3.6%	6	21.4%	8	23.5%	17	50.0%	19	55.9%
D	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0%
合計	28	100.1%	28	100.0%	28	99.9%	34	99.9%	34	100.0%	34	100.0%

※電気設備、機械設備はプール施設の評価を含みます。

※割合は、小数第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

### ③建設年度別健全度評価



### 劣化写真



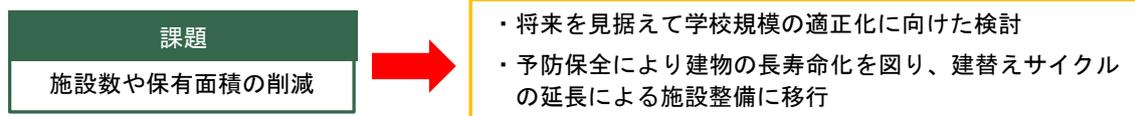
## 4. 学校施設整備の基本的な計画方針



### ■学校施設の規模・配置計画等の方針

#### ①学校施設の長寿命化計画の基本方針

本町の学校施設は、今後 20 年以内に 70%以上の建物が築 50 年を経過することになり、この更新には多くの費用を要することとなります。それらの建物が 50 年を超えた時点で、同規模で改築した場合、概算で総額約 110 億円程度の費用を要すると想定されます（1㎡あたり費用 33 万円と仮定した場合の単純試算）。



### ■目標使用年数、改修周期の設定

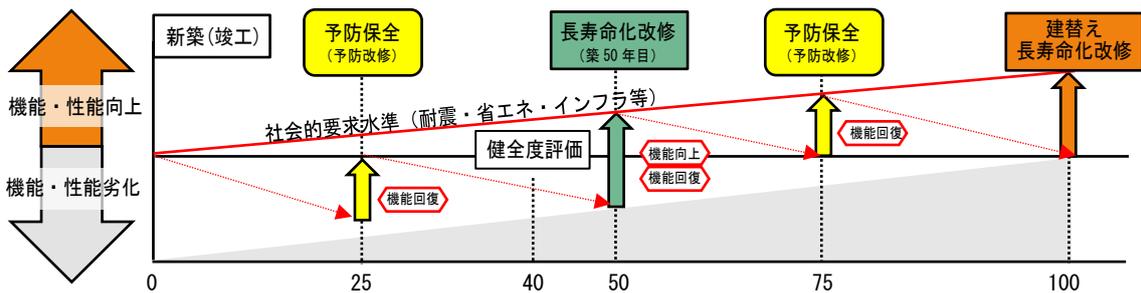
#### ①建築物の耐久計画に関する考え方より

目標使用年数 100 年

#### ②試算シミュレーションより

改修周期 25 年

#### ③更新サイクルのイメージ



## 5. 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等



### ■改修等の整備水準

単に数十年前の建築時の状態に戻すのではなく、構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など現代の社会的に要請に応じるための改修となるように実施します。

### ■維持管理の項目・手法等

#### ①施設管理者が実施する点検（日常点検・定期点検）

施設管理者が、学校保健安全法に基づき、屋根や外壁等の点検箇所及び亀裂や損傷等の点検項目に対して実施し、異常がある場合はできる範囲で応急措置を実施します。

#### ②専門技術者が実施する点検（法定点検・・・建築基準法、消防法、電気事業法）

すべての学校施設を対象に建築基準法第12条のとおり、建築物の構造等については3年ごと、建築設備及び防火設備については毎年、有資格者が損傷・腐食その他の劣化状況を点検します。

## 6. 長寿命化の実施計画

### ■改修等の優先順位付けと実施計画

#### ①改修等の優先順位

設定した改修周期を超えている期間が長い建物

劣化調査において、「屋根・屋上」、「外壁」にDランクがある建物で今後の改修等の予定が5年間予定されていない建物

#### ②10か年の実施計画

番号	学校名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度(年) 和暦 (西暦)	令和3年 ~ 令和7年	令和8年 ~ 令和12年
1	第一小学校	旧館②・⑬	RC	3	1,994	昭和41 (1966)		
2	第一小学校	新館	RC	4	2,516	昭和54 (1979)		長寿命化改修
3	第一小学校	増築棟	RC	3	498	平成元 (1989)		
4	第一小学校	体育館	RC	2	837	昭和49 (1974)	長寿命化改修	
5	第一小学校	プール施設	-	-	475	平成2 (1990)		
6	第二小学校	北館	RC	3	1,331	昭和51 (1976)		長寿命化改修
7	第二小学校	西館・増築	RC	4	2,795	昭和55 (1980)		
8	第二小学校	新館	RC	3	1,670	平成18 (2006)		
9	第二小学校	給食棟	S	1	250	平成17 (2005)		予防改修
10	第二小学校	体育館	RC	1	648	昭和46 (1971)	長寿命化改修	
11	第二小学校	プール施設	-	-	534	昭和45 (1970)		
12	第三小学校	A棟	RC	4	3,390	令和02 (2020)		
13	第三小学校	B棟	RC	4	1,215	昭和47 (1972)		
14	第三小学校	C棟	RC	4	1,071	昭和47 (1972)		
15	第三小学校	体育館	RC	2	857	昭和48 (1973)		
16	第三小学校	プール施設	-	-	396	昭和48 (1973)	大規模改修	
17	第四小学校	校舎①	RC	4	2,830	昭和56 (1981)		



劣化調査において、「屋根・屋上」、「外壁」にCランクがある建物で今後の改修等の予定が10年間予定されていない建物

耐用年数を超えている「内部仕上」、「電気・機械設備」

将来における民間施設の活用や、プール施設の集約等を考慮しながら、最低限のプール施設の改修等や濾過装置の更新

番号	学校名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度(年) 和暦 (西暦)	令和3年 ～令和7年	令和8年 ～令和12年
18	第四小学校	校舎④	RC	4	2,129	昭和56 (1981)		
19	第四小学校	校舎⑤	S	4	2,161	平成29 (2017)		
20	第四小学校	体育館	RC	1	929	昭和56 (1981)		
21	第四小学校	プール施設	-	-	483	昭和56 (1981)		大規模改修
22	第一中学校	旧館	RC	3	1,572	昭和36 (1961)		
23	第一中学校	西館・E V棟	RC	4	2,985	昭和48 (1973)		
24	第一中学校	特別教室 棟	RC	3	773	昭和63 (1988)	部位修繕	
25	第一中学校	体育館	RC	2	1,167	昭和43 (1968)	部位修繕	
26	第一中学校	プール施設	-	-	366	昭和52 (1977)	大規模改修	
27	第二中学校	校舎①・ ⑫	RC	4	3,648	昭和51 (1976)		
28	第二中学校	校舎⑤・ ⑥	RC	4	2,452	昭和57 (1982)		
29	第二中学校	給食棟	S	1	593	平成27 (2015)		
30	第二中学校	体育館	RC	2	1,081	昭和52 (1977)		長寿命化 改修
31	第二中学校	プール施設	-	-	534	昭和45 (1970)		
32	第一幼稚園	園舎	RC	2	1,198	平成5 (1993)		
33	第二学童 保育室	学童保育 室	S	2	496	平成30 (2018)		
34	第四学童 保育室	学童保育 室	S	2	411	平成28 (2016)		

## ■長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

施設の損傷が軽微な状態の内に計画的に改修等を行う「長寿命化型」へ整備手法を移行した場合、今後 40 年間の維持管理費は、「事後保全型」に対して約 167 億円まで縮減できる試算となり、さらに改修履歴や劣化度調査の結果や、施設の耐用年数を 100 年として目標設定した「更なる長寿命化」とする方針等を踏まえ今後 40 年間の維持・更新コストを試算した結果、約 144 億円まで縮減しました。

しかし、施設の劣化状況や児童生徒数等の状況は常に変化するため、整備方法や整備時期等については、適宜見直しを図るものとします。

時代のニーズに対応した学校教育環境を維持することが必要であることから、余裕スペースを把握し、地域の拠点施設としての有効活用を検討していきます。

また、校舎や体育館の他にプール施設の適正規模の再検討を進め、必要に応じて他の施設との集約化や複合化により施設総量の縮減を図り、施設の保有量の適正化を図ります。

	40年間の総額	事後保全型との縮減額	年平均	事後保全型との縮減額
事後保全型	244 億円		6.1 億円/年	
長寿命化型	167 億円	77 億円	4.2 億円/年	1.9 億円/年
更なる長寿命化	144 億円	100 億円	3.6 億円/年	2.5 億円/年

## 7. 長寿命化計画の継続的運用方針

### ■情報基盤の整備と活用

本計画策定後も、学校施設の老朽化は進行し、学校施設に求められる機能性や水準についても、今後、変化していくことが予測されます。

そのため、本計画を効果的に推進していくために、学校施設の基本情報に加えて、各種点検結果報告書や修繕履歴などを適切に管理することが重要です。

その結果、これらの情報を活用しつつ、財政との整合を図りながら、学校施設の適切な維持管理を行うことができます。

### ■推進体制等の整備

学校施設を継続的に運用し、安全で快適に維持するには、教育委員会と学校との連携が重要となります。学校は、日常的な点検により、その変化を教育委員会に速やかに報告します。教育委員会は、法令に定められた定期点検等を専門業者に依頼し、適切に修繕・更新を実施し、維持管理を行うとともに、学校から報告を受けたものに対する措置も行います。

### ■フォローアップ

本計画を、効率的かつ効果的な施設整備を進めていくために、PDCAサイクルにより維持管理を行います。

